

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 郡山市立白岩小学校 】

1 実践テーマ	I ・ III ・ IV ・ V
2 実施対象者	白岩小学校 全校生（1、2、4～6年） 40名
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（体育・社会・図画工作・総合的な学習の時間・生活科）</p> <p>② 行事名（学習発表会「白岩フェスティバル」）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	<p>○ オリンピックやパラリンピックについて学び、その意義や精神、参加する選手や運営する人々の努力について理解する。</p> <p>○ フェアプレーやチャレンジの精神、自己実現といったスポーツの価値を知り、スポーツや健康管理に対する関心・意欲を高める。</p> <p>○ 他の国や障がいがある方々と交流をもつことで、多様性を尊重する視点を持ち、他者への共感や思いやりの心情を育てる。</p>
5 取組内容	<p>「わたしたちのオリンピック・パラリンピック in Tokyo」 ～やってみよう つながろう～</p> <p>実践1〈生活科(1、2年)・社会科・総合的な学習(4～6年)〉</p> <p>「ホスト国 オランダのみなさんにオリンピック・パラリンピックを見に来てもらおう。」</p> <p>【調べる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 姉妹都市（オランダ王国ブルメン市について） ・ オランダの様子について（国土・生活・スポーツ） <p>【味わう】「オランダメニュー給食」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オランダの食文化体験



【つながる】

○「ホストタウン交流事業」 〈協力：郡山市国際政策課〉

- ・ブルメン市内小学校との交流(5月～2月)

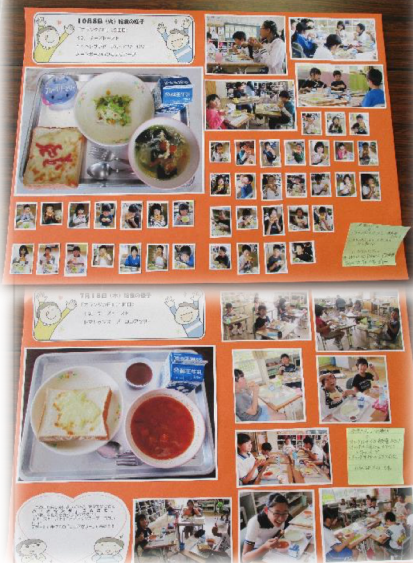
S k y p e 交流

手紙・ビデオレターメッセージの交換

学校ホームページでの情報発信

テレビ電話によるオランダの小学校との交流その1

5月28日(木) 16:00から、オランダのブルメン市のヘット・バルク小学校の子ども達と、本校の4～6年生の子ども達がテレビ電話で交流しました。
本校の作ったポスターをヘット・バルク小学校の子どもがブルメン市の市長さんに渡しました。郡山市の市長さんも来校され、子ども達と一緒に交流しました。



○「家庭・地域とつながる」

- ・オリパラ教育の取組みを家庭と地域に発信

懇談会時にビデオレター上映

学校だよりやホームページで情報発信

学校の玄関ホールにオリパラコーナーを設置



◎ 学校が起点となり、
ホストタウンとしての
気運の醸成を図る

実践2く体育科・児童会活動（全学年）

「パラリンピックってなに？」

～シッティングバレーボールを体験しよう～

【調べる】

○「パラリンピックスポーツ「シッティングバレーボール」について調べよう」

- ・パラリンピックとは
- ・シッティングバレーボールの簡単なルール
- ・教材「I'm possible」

【見る・きく】

○「お話をきく」

- ・パラリンピックについて
- ・シッティングバレーボールのルール・よさ

【体験する】I'm possible

「シッティングバレーボールをやってみよう！」（全学年）

簡易ミニコートでの体験

- わかりやすい簡単なルール
- 風船やソフトバレーボールの活用（練習の必要はない）
- だれでもすぐに楽しめる



6 主な成果

○ホストタウンとの交流活動を通して、外国の国土や文化、生活習慣について理解を深め、多様性を認め、尊重しようとする気持ちが高まった。また、Skypeによるリアルタイムの交流は、さらにつながりを強めるよい機会となった。

○シッティングバレーボールの体験を通して、ルールの工夫で平等に競い合うことができるというパラリンピック競技の素晴らしさに触れることができた。また、国内では体に障がいを持つ方と健常者がチームを組んで競技をしていることを知り、「共生」の意識も強まった。

○オランダメニュー給食を実際に食べたりする経験により、異文化理解を深めることができた。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを児童にとって貴重な機会ととらえ、新たなスポーツとの出会いや、オリンピック・パラリンピックに関わる人々および他国の人々とのつながりを通して体験的に学べるように配慮した。</p> <p>また、学校が起点となり、地域のホストタウンとしての気運を高められるよう、家庭・地域への情報発信の機会を設定した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○講師の確保については、学校単独では困難であり、今後も県・市の支援が必要である。</p> <p>○児童の関心・意欲が高まっていることから、オリンピック開催後も継続した取り組みとしたいが、予算の面で見通しが持てない状況にある。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>○「ホストタウン交流事業」の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オランダ ブルメン市内小学校との交流 Skype等での交流 学校ホームページでの情報発信 <p>※ 郡山市国際政策課の協力を得ながら交流をさらに深める。</p> <p>○児童がオリンピックとの交流を通して、スポーツの魅力や努力することの素晴らしさ触れ、運動の日常化を図る活動</p> <p>○児童が主体となった地域への広報活動</p>